

織研教室

クールグリーンライフで良質の街を形成

環境共生最先端都市

松本 大地

高い創造研究所代表取締役

積極的な企業誘致

アメリカ・オレゴン州ポートランドの街の生き方、ライフスタイルからは、近代工業社会が破壊した生活環境を修復し、潤いのある街づくりと豊かな生活文明を築くことで、持続的な繁栄をもたらすことが実証されている。4月に訪れた際、地元紙のトップ面には

「この最先端を進む内容であった。オバマ大統領が打ち出したグリーンニューディール政策以上のことを、既に実践している環境共生最先端都市である。」

「ポートランドでは毎週5000人の新しい住民が誕生し、それも21歳から35歳の働き盛りの若年層が急増している」とポートランド市開発局のピーターカニン

「欲あふれる人が向かう街、女性が起業しやすい街として最高位にランクされているように、新しい人や前向きな思考を受け入れる気風があり、市開発局は就業機会の増大を最優先政策として積極的な企業誘致活動を行っている。」

定住人口も交流人口も増加している背景は、モノの豊かさや便利さよりも、環境共生を暮らしに取り込んだライフスタイルや良質な地域コミュニティに裏打ちされたコトの豊かさによ

心豊かな生活には身近な日常生活の充実が欠かせないと示唆している。

1992年に地元農家や畜産を営む人が13店ではじめたPFMは年々拡大を続け、現在では市内に4カ所、合計250の出店者の規模となり、その売り上げは500万ドルに達している。毎週土曜日に開催されるポートランド州立大学のPFMは、ポートランドのシンボルでもある。訪れるすべての人はマイバックを持参するのも、ここでのラ

若い世代が住みたくなる都市

「都市政策はグリーンで染められた」との見出しで、二酸化炭素(CO2)削減の40年プランが公表された。ポートランドは1993年に地球温暖化対策を政策に取り入れた米国で最初の都市であり、今回のプランではCO2排出量を2030年までに1990年比の40%減、40年後の2050年には80%減と定めた。その骨子は路面電車、コミューンティーガーデン、植樹、住宅ソーラーパネルの拡充のほか、ローカルフードの生産、購入を後押しするインセンティブや教育の提案など、さらなるグリー

グハム氏は語った。若者はグリーンライフの先頭をいく都市に住むことがクール・トレンドデー(かつていい)ととらえている。街づくりのランキングで、ポートランドは常に創造的で意

る魅力があるからである。

希望持てる街作り

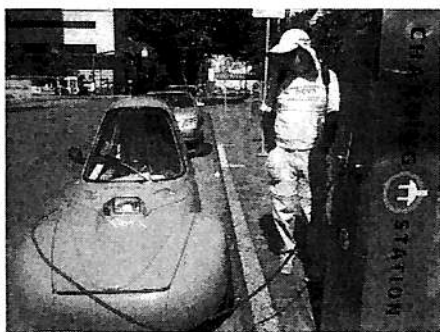
ポートランドファーマーズマーケット(PFM)は、ポートランドらしさを表す街のシンボルであり、

ライフスタイルである。

ポートランドでは長期的な未来に影響を及ぼす行動への責任を明示し、公共交通機関整備やゴミの削減やリサイクルやリユースを促進する持続可能な生活の規



「これだけ新鮮で豊かな食材が揃い、楽しいマーケットがあることはポートランドの自慢のひとつ」と語るPFMで買い物をするデイビットさんとアリソンさん



街なかで電気自動車の充電をするポートランダー

範がつくれ、将来への希望が持てる都市づくりの基盤が存在する。そんな街に次世代環境適応車の先端モデル都市として世界が注目された。2010年、日産は新たな電気自動車の試作品をポートランドで発表し、その後2012年に全世界に広げると公表した。米国で最もハイブリッド車の所有者割合が多いポートランドを波及効果の高いマーケットとしてとらえ、充電ステーションのネットワーク整備も始まった。三菱自動車ノースアメリカはオレゴン全土に電気自動車の充電ネットワークをつくる協力、トヨタはポートランド州立大学のシャトルバスに電気自動車の導入を申請、中国企業もテストマーケットリングの候補地へと熱い視線を送っている。オレゴン州クロンゴースキー知事は「そのパートナーシップは、我々の経済と環境のために緑豊かな未来にむけたコミットメントのためによい機会を創造した」と話す。

安心安全の豊かな食ライフを提案するPFMや地球に優しいカーライフなど、環境共生型社会の歩みを続けるポートランド。クールトレンドデーと感じて意欲的な若者が暮らすそのライフスタイルには、大きな価値観の変化とともに、新しいファッションビジネスのヒントが内在している。